

地学オリンピックの現状と今後の課題

The report of the International Earth Science Olympiad (IESO)

*瀧上 豊¹

*Yutaka Takigami¹

1. 関東学園大学

1. Kanto Gakuen University

今までの地学オリンピックの活動と今後の計画や課題について報告します。

1) 今までのあゆみ(2012-2017)と今後の予定(2018-2021)

第1回 韓国大会 7か国・地域 24名参加 日本はオブザーバー参加

第2回 フィリピン大会 6か国・地域 24名参加 銀3、銅1

第3回 台湾大会 14か国・地域 50名参加 銀4

第4回 インドネシア大会 17か国・地域 63名参加 金1、銀3

第5回 イタリア大会 26か国・地域 104名参加 金1、銀2、銅1

第6回 アルゼンチン大会 17か国・地域 66名参加 金1、銀3

第7回 インド大会 23か国・地域 90名参加 金1、銀3

第8回 スペイン大会 21か国・地域 82名参加 金3、銅1

第9回 ブラジル大会 22か国・地域 85名参加 金1、銀1、銅2

第10回 日本大会 26か国 100名参加 金3、銀1

第11回 フランス大会 29か国 108名参加 金2、銀2

第12回 タイ大会、第13回 韓国大会、第14回 ロシア大会、第15回 ノルウェー大会 予定

2) 日本地オリンピック(国際大会予選)について

毎年9月1日～15日募集

予選 12月中旬 全国約75会場、約2000人応募→60名選出

本選 3月中旬 つくば市、60名 →金賞、銀賞、銅賞 各10名

代表選抜 3月中旬 つくば市 金賞10名→4名国際大会代表

3) 計画・課題

事務局メンバーの高齢化、文部科学省の支援金の減少 など。

⇒

事業のスリム化、OB/OGの活用

キーワード：国際地学オリンピック

Keywords: International Earth Science Olympiad